“リア充”の使用実態とそこに込められた感情

○黒田卓哉¹・望月聡²

(¹筑波大学大学院人間総合科学研究科・²筑波大学人間系)

キーワード: リア充, 実態調査, 感情体験

An exploratory study of emotional experiences and utilization of “*Riaju*”

Takuya KURODA¹ and Satoshi MOCHIZUKI²

(¹Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba., ² Faculty of Human Sciences, University of Tsukuba.)

Key words: “*Riaju*”, factual investigation, emotional experience

【 目 的 】

ネットスラングに“リア充”という言葉がある。これは「現実生活（＝リアル）が充実している人たち」の略語とされている。近年，“リア充”は、思春期や青年期の人々を中心に、インターネットなどの様々な場で使われ（戸高，2011），それには現実生活が充実している人たちに対する嫉妬や羨望（桂，2010；田中，2010）をはじめ，“リア充”ではない自身への失望（田中，2010）や疎外感（戸高，2011）などの負の感情が込められていると指摘されている。しかし，現状では“リア充”という概念へ心理学的にアプローチした研究は見当たらない。そもそも，“リア充”という言葉の定義が人々にどのように捉えられ，使用されているかはっきりしていない（桂，2010；田中，2010；戸高，2011）。そこで本研究では，“リア充”という言葉がどのような言葉として捉えられ，どのような感情体験を伴って使用されているかを検討する。

【 方 法 】

調査対象：国立大学の大学生 287 名（男性 146 名，女性 141 名。平均年齢 19.81 歳， $SD=1.11$ ）を対象とした。

調査内容：無記名式の個別回答方式質問紙調査であった。“リア充”という言葉を知っているか否か，使用した経験の有無，“リア充”と言われた経験の有無，を 2 件法で尋ねた。“リア充”を使用する場について，複数選択肢の中から複数回答を求めた。“リア充”という単語の定義，用法，言われた時の感情体験，他者を“リア充”だと思ったとき，および自分を“リア充”だと思ったときの感情体験を自由記述で求めた。Visual Analog Scale（以下，VAS）を用いて，自らが“リア充”であると思う程度を 0% から 100%（100mm）の幅で求めた。

【 結 果 】

無効回答は質問項目ごとに分析から除いた。“リア充”という単語を知っている者は 98.6%（283 名/287 名），他者を指して使ったことがある者は 85.8%（242 名/282 名），自分を指して使ったことがある者は 36.9%（106 名/280 名），言われた経験がある者は 48.2%（131 名/272 名）であった。VAS によるリア充度自己評価得点は平均 48.30 点，標準偏差 27.89 であった（有効回答 264 名）。これらの結果について男女差は見られなかった。また，“リア充”を使用する場としては，“現実の対人場面”が 91.8%，“Twitter”が 51.9%，“mixi”が 16.0%，“2ちゃんねるなどの掲示板”が 13.4% などであった。

続いて，リア充度自己評価点の上位 33% の 109 名（境界点 65 点）を“リア充群”とし，下位 33% の 88 名（境界点 38 点）を“非リア群”とした。各群における，“リア充”に関する自由記述分類の報告数を Fisher の直接確率検定を用いて検討した。“リア充”の定義（Table 1），用法（Table 2），言われた時の感情体験（Table 3），他者を“リア充”だと思ったときの感情体験（Table 4），自分を“リア充”だと思ったときの感情体験（Table 5）をそれぞれ表に示した。なお，中位の報告も合わせた，総報告数は各分類名の右側（ ）内に示した。

【 考 察 】

大学生における，“リア充”という言葉の認知率や現実の対人場面における使用率の高さから，大学生において，“リア充”という言葉は，日常生活に十分浸透していると考えられる。

定義として最も認知されている事柄は，異性関係の良好さであったが，使用する際の意味づけや感情体験は，自身が感じられる充実の程度によって，異なることが示された。

Table 1 “リア充”の定義についての群別報告数

	現実の充実(103)	歓喜がある(55)	アクティブさ(43)	忙しさ(35)	社会的成功(16)	対人関係良好(77)	異性関係良好(194)	その他(34)
非リア群	28 -0.77	12 -2.19*	12 -0.84	8 -1.92	10 2.17*	29 0.43	62 0.50	21 3.53***
リア充群	37 0.77	27 2.19*	18 0.84	19 1.92	3 -2.17*	29 -0.43	64 -0.50	5 -3.53***

Table 2 “リア充”の使い方についての群別報告数

	会話の流れ(43)	恋愛・異性との交流の話(90)	忙しい人に対して(20)	充実している人に対して(50)	リア充爆発しろ！(7)	羨ましさを含めて(23)	攻撃を含めて(41)	自虐・劣等感・差別化(14)	その他(32)
非リア群	12 -0.94	30 -0.37	5 -1.73	16 -0.98	7 2.44*	12 2.80**	15 -0.97	8 0.51	16 1.24
リア充群	14 0.94	27 0.37	10 1.73	18 0.98	0 -2.44*	1 -2.80**	17 0.97	5 -0.51	8 -1.24

Table 3 “リア充”だと言われた時の感情体験についての群別報告数

	嬉しさ(23)	優越感(8)	からかわれている・困惑(18)	不快感・疎外感(14)	嫉妬されている(14)	疑念・反感(27)	事実としての承認(27)	特に気にしない(23)	その他(17)
非リア群	1 -1.44	0 -1.34	1 -1.09	4 1.42	1 -1.33	10 3.49***	3 -1.27	4 0.62	3 0.43
リア充群	13 1.44	6 1.34	10 1.09	6 -1.42	12 1.33	9 -3.49***	21 1.27	10 -0.62	8 -0.43

Table 4 他者を“リア充”だと思ったときの感情体験についての群別報告数

	リア充爆発しろ！(14)	軽いなじり(5)	憤慨(28)	劣等感・悲哀(11)	別種感(5)	切望(117)	憧憬(16)	ほほえましさ・祝福(33)	大変さへの同情(7)	事実としての認識(40)	特に何も感じない(40)	その他(13)
非リア群	9 1.96	2 0.48	14 1.31	8 2.71**	5 2.13*	35 -1.06	2 -3.00**	10 -0.97	4 1.22	13 -0.95	13 -0.54	7 0.72
リア充群	2 -1.96	1 -0.48	7 -1.31	0 -2.71**	0 -2.13*	38 1.06	12 3.00**	13 0.97	1 -1.22	16 0.95	14 0.54	4 -0.72

Table 5 自分を“リア充”だと思ったときの感情体験についての群別報告数

	幸福感(109)	優越感(13)	自信・向上心(15)	疲労感(11)	後ろめたさ(5)	違和感(8)	反感(9)	「リア充」だと感じたことがない(25)	特に何も感じない(25)	その他(21)
非リア群	21 -2.71**	4 -0.36	1 -2.26*	3 -0.24	1 -0.68	3 0.43	3 0.43	17 4.5***	7 0.94	9 1.00
リア充群	50 2.71**	7 0.36	10 2.26*	5 0.24	3 0.68	3 -0.43	3 -0.43	2 -4.5***	6 -0.94	8 -1.00

※ 全てのTableにおいて，上の数字が報告数であり，下の数字が調整済み残差。* $p<0.05$ ，** $p<0.01$ ，*** $p<0.001$
Fisherの直接確率検定の結果，Table 3は $p<0.05$ ，Table 2は $p<0.01$ ，Table 1，Table 4，Table 5は $p<0.001$